大腸内視鏡検査　説明・同意書

患者番号：

様

大腸内視鏡は、直接大腸の粘膜を観察できるため、大腸癌をはじめとする大腸疾患の診断にはなくてはならない検査の１つです。しかし、内視鏡検査に伴う合併症も稀にあり、治療中の病気によっては検査に注意が必要になることもあります。そのため、大腸内視鏡を受けられる方には検査の内容や合併症について十分理解していただくとともに注意事項を厳守していただく必要があります。

【検査内容】

1) 検査台の上に身体の左側を下にして横になります。麻酔のゼリー(キシロカインゼリー)で肛門麻酔をした後、肛門から大腸内視鏡（スコープ）を挿入し、曲がった大腸をまっすぐにしながら、盲腸まで大腸内視鏡を進めます。
2) 検査中に内視鏡の挿入や観察を容易にするために体位を変換していただくことがあります。
3) 鎮痛剤を使用しますが、検査中に大腸が引き延ばされて痛みが生じることがあります。我慢できないような強い痛みが生じた場合はすぐに申し出て下さい。
4) 検査時間は約30分以内に終了しますが、挿入困難な場合は30分を超えることもあります。
5) 病変が見られたり、また病変が疑われる場合には必要に応じ次のようなことが行われます。
   ○治療対象となるポリープがあれば、高周波電流を使い、ポリープ切除術を行います。
   ○粘膜組織の一部をとる検査（生検）を行うことがあります。
   ○出血などがみられた場合には、操作（止血クリップ）を行います。

【内視鏡検査にかかわる合併症（偶発症）について】

内視鏡検査による危険性としては次のようなことが報告されています。

○内視鏡そのものによる粘膜損傷や裂傷
非常にまれですが、裂傷が高度な場合、穿孔（腸管が裂け、穴があく）を起こすことがあり、外科的手術が必要になることもあります。
○生検による出血やポリープ切除した場合の出血
○検査前にあった疾患の悪化など
ただし以上の合併症が起こらないように、細心の注意を払い内視鏡検査は行われます。

【検査後】

検査内容によっては食事、飲酒、運動、仕事などに注意や制限が必要になります。その期間や内容は個々により異なりますので、医師や看護師にお聞き下さい。
腹痛、気分不良などがあれば担当のものに申し出てください。
以上、大腸内視鏡検査の内容・合併症について、説明しました。
なお、入院中に繰り返し行う場合は、入院最初に頂いた同意書を有効とします。

説明日：

南海医療センター　　説明医師（署名）：

南海医療センター　院長　殿

主治医からの説明により、主治医からの説明により、大腸内視鏡検査の内容・合併症について理解した上で、 検査を受けることに同意いたします。

患者様署名　：

代理人署名　：

（ 続柄：　　）

注）　患者様本人が署名できない場合は、代理人の方が「代理人署名」欄に記載をお願いします。